

領域	共通評価項目		評価		改善された点・今後の改善点
教育目標に関する評価項目	I 「かしこく」に向けて児童生徒が向上している。		自己	B	・学習に対して意欲的な児童が増えてきた。一方で、個人差がある。
			関係者	A	・落ち着いた生活を送っているように思う。
	II 「なかよく」に向けて児童生徒が向上している。		自己	B	・仲間を意識させて行事等に取り組めた。 ・人間関係づくりに課題がある子が多いと思う。スキルを身につけさせる必要がある。
			関係者	B	・からかいや暴言を言う子どもがいると聞いている。 ・子ども達が素直に成長しているように感じる。 ・縦割り活動についてとても良いと思う。
	III 「たくましく」に向けて児童生徒が向上している。		自己	B	・体力づくりに向けて、委員会（体育）活動の充実（声 かけ等） ・朝マラソンの取組が改善され目標を持って走る子が増えてきた。一方で外遊びが不十分であった。
			関係者	B	・朝、子どもが良くは走っているのを見る。
学校運営に関する評価項目	I 学校は、組織的・計画的に教育活動に取り組んでいる。 ・「報」「連」「相」が部一主任一管理職の流れで進められているか。 ・教科等主任は、本年度の課題を持って部を運営できたか。		自己	B	・アレルギーの面談で連絡が不十分のことがあった。 ・報練相の徹底をする。 ・協力して活動することが出来た。チームとしての活動を意識できた。
	II 学校は、清潔であり、よく整頓され、掲示の工夫や環境美化にも取り組んでいる。 ・日々、教室に落ちている物を確認する時間を設定しているか。 ・時期に応じた適切な掲示ができたか。		自己	B	・教室の整理整頓は毎日意識して出来た。一方で掲示 物に遅れが出てしまった。 ・教室掲示が少しおろそかになってしまった。
教育指導に関する評価項目	知育（学力）	I 教員は、学力が定着するよう授業を工夫している。 ・教科指導でK4（課題・活動・確認・価値付け）の流れで授業を進めることができたか。	自己	B	・K4特に課題、価値付けを意識して授業を進めることが出来た。 ・校内授業研修でも、意識して実践できた。 ・意識して授業を進めている。
				関係者	B
	II 子どもが家庭でも学習している。 ・日々の宿題(家庭学習)の実施回収状況が良好である。		自己	B	・家庭学習について懇談会等を通じて呼びかけた。個人差が大きい。
			関係者	B	・家庭学習は毎日取り組んでいる。 ・家庭で学習させるのは難しい。 ・繰り返し保護者に協力をお願いする。

徳育 (規律)	I 子どもが正しく廊下歩行できたり、時刻を守ったりしている。 ・廊下歩行は教師が見届け、できていない児童にはやり直しをさせている。	自己	B	<ul style="list-style-type: none"> 廊下を走っている児童がまだいる。直ぐにやり直しをさせる。 引き続き声かけが必要 生活目標の月以外でも、日々の声かけや指導を行う必要がある。 目の届かない所では走っている。 学校全体で指導する意識を持ち取り組む。そのためには、教職員だけでなく、子どもから注意をさせる。 出来る子もいるが、出来ない子も多い。先生方と連携して声かけをする必要がある。 	
		関係者	A	・とっても落ち着いている。	
	II 子どもが進んであいさつや返事をしている。 ・あいさつや朝の健康観察の返事は適切な声でできているか。	自己	B	<ul style="list-style-type: none"> あいさつは定着してきた。 進んであいさつをする子が増えた。 引き続き声かけが必要 教職員の方から積極的に声かけをするなど継続して指導して行く。(返事・あいさつの大切さ) クラス内では出来ていても、登下校の時は出来てない。 	
		関係者	A	・あいさつはしてもらう。	
	体育 (体力)	I 子どもの体力が向上している。 ・自学年の平均が県の平均を上回っているか。	自己	B	・平均を上回る項目が多いが、個人差が大きい。生涯にわたって、スポーツに親しめるような工夫をしたい。
			関係者	B	・更なる指導法の工夫をし、全体の底上げをすることで体力向上につながると思います。
II 子どもが、外遊び、運動、スポーツに取り組んでいる。 ・朝マラソン、授業等で児童がカー杯体を動かしているか。		自己	B	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びに進んで行かない児童がいる。上手な言葉かけをする。 体育の授業以外に、休み時間の外遊びの場の工夫があると良い。(掲示・備品) ペース同大会に向けて、業間マラソンがあり良い。 寒くなると外に出ることを渋る子がみられる。全体で取り組めるようなイベントがあると良い。 授業以外でも鉄棒で遊ぶ児童が出てきた。 	
関係者	B	・外遊びが少ない。			
家庭・地域との連携に関する評価項目	I 学校は、地域の特色を生かした教育活動に取り組んでいる。 ・学校応援団等協力者との連携は計画的かつ円滑に行われているか。	自己	B	・昔遊びなどで、多くの地域の方が手伝っていただいた。	
		関係者	A	・地域の皆様が非常に協力的である。	
II 保護者は、学校の教育活動に協力している。 ・学校の依頼に対して協力的である。	自己	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者のボランティアを募っても少ないのが現状である。難しいが声かけは必要 教師だけでは行えない授業展開をすることが出来た。 		
	関係者	B	<ul style="list-style-type: none"> P T A 役員の方々が学校に非常に協力的で素晴らしい。 多くの保護者の方に協力をしていただいた。 		

*評価は、A (十分達成できた)、B (おおむね達成した)、C (不十分な点がある)、D (不十分である) の4段階で記入する。